指定管理導入施設実績評価シート（令和7年度）

施設所管課	健康福祉部介護・福祉施設課

施　設　名	大津市障害者福祉センター
指定管理者	社会福祉法人大津におの浜障害者福祉協会
指定期間	令和7年4月1日　～　令和12年3月31日
指定管理料	年額26，000，000円（令和7年度）　（総額130，000，000円）
設置目的	障害者の福祉の増進及び自立の促進を図ることを目的とする。
業務内容	・大津市障害者福祉センター条例第3条に規定する事業の実施に関する業務 ・センターの使用の許可に関する業務 ・センターの施設及び設備の維持管理に関する業務 ・その他市長が定める業務

所管課総合評価	Ⅰ～Ⅳによる総合評価	総合評価コメント
	B（良好）	利用者のニーズに応えられるように自主事業等を実施した結果、利用者及び貸館利用は増加している。今後も利用者に寄り添った事業展開、対応に期待する。

	評価項目及び評価の視点	確認資料	自己評価	自己評価事由	所管課評価	所管課評価事由
Ⅰ実施体制	**施設の設置目的の達成** □ 施設の設置目的を十分に理解し、それを踏まえ管理運営に努めていたか。	条例、仕様書、事業計画書、事業報告書	A（優良）	法人の設置目的に合致しており、十分理解し管理運営にあたっている。	B（良好）	法人の設置目的に合致しており、十分理解し管理運営されている。
	職員の勤務実績・配置状況・労働条件 □ 事業計画書に沿った職員を配置していたか。 □ 必要な資格、経験を有する職員を確保していたか。 □ 出勤状況、勤務形態等、労働条件が適正であったか。 □ 障害者の雇用促進に努めていたか。	仕様書、事業計画書、日報、勤務表、資格証、実地調査、労働条件モニタリング	B（良好）	事業計画の遂行に必要な資格とりわけ専門的な国家資格を有する職員を採用しているが。職員の故障等による退職があり、一部職員の残業等負担となっている。	B（良好）	事業計画の遂行に必要な職員を配置し、必要な資格に加え、専門的な国家資格を有する職員を採用している。
	職員の研修 □ 事業計画書に基づき、業務に必要な研修、教育が実施できたか。	仕様書、事業計画書、事業報告書、研修資料等	A（優良）	業務推進のため部外研修も受講し必要な資格の保持に努め、必須研修を超えた専門的研修の受講を推進している。	B（良好）	業務推進のため部外研修も受講し必要な資格の保持に努め、必須研修を超えた専門的研修の受講を推進されている。
	法令等遵守 □ 関係法令、条例等を遵守していたか。	仕様書、関係法令等、実地調査	A（優良）	法令・規則を遵守し管理運営業務を行っている。	B（良好）	法令・規則を遵守し管理運営業務を行われている。
	個人情報保護・情報公開 □ 個人情報・情報公開の取り扱いについて、協定書に基づき適切に行っていたか。	仕様書、協定書、管理方法（実地調査）	A（優良）	市や法人が定める規則に従い協定書に基づく個人情報や情報公開は適切に行っている。	B（良好）	個人情報保護や情報公開を適切に行われている。
	管理記録 □ 業務日誌等を適切に整備、保管していたか。 □ 点検結果や修繕履歴等を適切に記録・保管していたか。	日報、点検結果等関係書類、実地調査	A（優良）	必要な管理記録や修繕履歴は適切に保管し、共有している。	B（良好）	必要な管理記録や修繕履歴は適切に保管し、法人内で共有されている。
	連絡体制 □ 市と指定管理者間で十分に連絡、調整を行っていたか。 □ 事業計画書、月報、事業報告書、その他報告書等の提出や内容が適正であったか。	仕様書、事業計画書、事業報告書等関係書類	A（優良）	市の担当者とは常に連絡調整を行い月報や事業報告書等は適正に行っている。	B（良好）	連絡調整は円滑にできている。
	緊急時対応 □ 事故・災害等の緊急時の連絡体制が確保されていたか。 □ 緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練等を行うなど、職員への指導徹底を図っていたか。	仕様書、事業計画書、事業報告書、緊急時対応マニュアル	B（良好）	法人の緊急時マニュアルを作成するとともに消防訓練も実施する等職員への指導徹底をはかっている。また、感染症蔓延防止研修も今期より実施し、その防止に資するものとしている。これは新規採用職員にも採用時研修を行い徹底しているところである。 福祉避難所としての役割完遂に向け自立支援協議会等で原課に対応を求めているが、市よりの具体な指示が見当たらない状況が継続している。	B（良好）	緊急時のマニュアルは整備されており、職員への指導徹底を図っている。福祉避難所としての役割（備蓄品の保管等）完遂に向け自立支援協議会等で障害福祉課と協議されていることを確認。
	《Ⅰ総　括》　業務の実施体制に関する評価【標準8項目／当施設8項目】		A（優良）		B（良好）	

指定管理導入施設実績評価シート（令和7年度）

	評価項目及び評価の視点	確認資料	自己評価	自己評価事由	所管課評価	所管課評価事由
Ⅱ内容・水準	**施設管理** □ 開館日、開館時間を遵守していたか。 □ 事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じていたか。	条例、規則、仕様書、事業計画書、日報	A （優良）	市の条例、規則に従い開館。安全確保のため日常点検に努めリスク管理を行っている。	B （良好）	条例、仕様書のとおり、開館時間を守り安全管理をされている。
	利用状況 □ 利用者数、稼働率等が前年度実績や目標と比較し適正な水準であったか。	事業計画書、事業報告書	A （優良）	前年度同時期比貸室数は107%増、利用人数は109%増でコロナ以降堅調に利用者数は推移しているといえる。これは各団体の活動がコロナ平静下で徐々に拡がっていることがうかがえる。ただ、和室などの利用率は引き続き低調。部屋のつくりが市民のニーズに沿っていない。また、市内障害者団体等からは昨年度に引き続き利用者の高齢化に伴い最寄駅からの徒歩による来所が困難な状況も見受けられ、その対処(＝送迎等)を求められている(市には報告済み)点については、担当課にもご検討いただきたい。	B （良好）	利用者数、貸室数は前年同時期と比較し増加傾向にあり、良好な水準である。 若者の利用については、自立訓練事業により増加傾向にある。
	利用者対応 □ 利用許可や案内等、職員の応対は迅速かつ適切に行ったか。 □ 服装、言葉遣い、接客態度等の接遇は適切であったか。 □ 利用者に対して設備、備品等を適切に提供したか。	業務マニュアル、意見・苦情等受付簿、アンケート、実地調査	B （良好）	利用される障害者や団体とは連携できており、職員の対応は適切で必要な備品は事前配置している。定期的な検査や市の指示で行う外部業者等による点検や修繕工事については利用団体に伝えているものの、団体内での連絡が徹底されていない場合が課題である。	B （良好）	利用される障害者や団体等と連携を図られている。
	業務運営（全体） □ 事業計画書に則し、事業を計画どおり実施したか。 □ 利用促進に向け、積極的に取り組んでいるか。	仕様書、事業計画書、事業報告書、実地調査	A （優良）	この3年間実施している法人独自の初心者向けの手話講座は今年度も実施し、秋に全5回を開催した。前回同様に地域のマンション等に情宣を行い都合、通算91名の参加を得ることができた。前クールに実施した知的障害者体験などとも相まって、地域に根差した障害者福祉センターをアピールできた。今後これの取り組みは、講座内容を一層検討し障害のある市民以外の福祉にも資する提案をしていきたい。	B （良好）	事業計画どおりに事業を実施されている。
	自主事業運営 □ 自主事業計画書に則し、事業を計画どおり実施したか。 □ 利用者の満足度を高める工夫がされたか。 □ 事業の実施により市民サービスの向上に効果があったか。 □ 施設の設置目的に沿った自主事業を実施したか。	仕様書、自主事業計画書、自主事業報告書、実地調査	A（優良）	事業計画に基づき障害者IT事業を実施し、利用者から喜ばれている。障害者のパソコン操作の習得に貢献している。運営主体は県事業であり、課題等については先方当該部署と協議されたい。当法人の管理業務としてはA評価を記しておく。	B（良好）	自主事業計画どおり実施されている。 パソコン教室は県事業であることを確認したが、パソコン操作の習得支援については自立支援事業等のカリキュラムに組み込む等独自の取組も実施していることを確認。
	維持管理 □ 施設、設備の保守管理(点検・修繕)を計画的に実施したか。 □ 修繕が必要な箇所について、適切に対応したか。 □ 日常の清掃、保安、警備は適切に実施しているか。 □ 備品台帳に基づき備品を管理、修繕したか。 □ 植栽、樹木等の維持管理を定期的に実施し、美観が保たれていたか。	仕様書、備品台帳、点検結果、委託契約書、実地調査	A （優良）	常に施設の内外を点検し必要な個所は補修する等利用者に安全と快適な環境を提供している。施設内の植栽管理や除草を行い美観保持に努めている。備品台帳に基づき備品点検も実施している。大規模な修繕箇所については予算の関係もあり業者や市に逐次、報告や見積依頼を行っている。	B （良好）	施設の点検･修繕については、市と連携を取りながら、必要に応じて対応されている。
	情報提供 □ 施設案内、事業の開催案内等のパンフレット類を整備し、情報発信に努めていたか。 □ ホームページ等の管理及び更新は適切に行っているか。	パンフレット・ホームページ等、実地調査	A （優良）	施設案内やセンター便りを発行し情報発信に努めるとともに、ホームページの一層の充実のため委託業者等も精査しなおし、スコラ事業中心に随時の更新を行っている。	B （良好）	便りを地域に配り、自主事業の促進に努められている。

指定管理導入施設実績評価シート（令和7年度）

	環境配慮 □ 省資源、省エネルギー等環境への配慮、リサイクル等の推進等に努めていたか。	関係書類、実地調査	**A（優良）**	リサイクルで活用できるものは全て資源として活用している。	**B（良好）**	リサイクル等の利活用の促進に努められている。
	ユニバーサルデザイン等への配慮 □ ユニバーサルデザイン、バリアフリーへの配慮、障害者に対しての合理的配慮の推進等に努めていたか。	関係書類、実地調査	**A（優良）**	当センターは建設当初より、多数で多様な障害当事者が利用することを想定されたことから上下履き替えを想定しない基本ウォークイン方式の設備となっている。もちろんエレベーター配備である。このことにより、育児等でベビーカー使用の利用者にも障壁なく当センター利用が可能となっている。また昨年度より、二室あるオストミー対応トイレの一つをオールジェンダー仕様とし、様々な特性ある利用者に資する設備改変を行っている。	**B（良好）**	左記のとおりユニバーサルデザイン等への配慮を行っている。
	意見・要望・苦情 □ 意見・要望・苦情等を把握する仕組みを確立しているか。 □ 要望・苦情等の対応に迅速かつ適切に対応し、可能なものは管理運営に反映していたか。	事業計画書、事業報告書、日報、アンケート	**B（良好）**	社会福祉法の規定により苦情解決のための第三者委員会を設置しているが、今のところ案件はない。	**B（良好）**	第三者委員会を設置する等苦情解決の仕組みを整えられている。
	利用者アンケート □ 利用者アンケート調査等を実施するなど、利用者ニーズを積極的に把握し、その結果を管理運営に反映していたか。	事業計画書、アンケート、実地調査	**A（優良）**	アンケート結果はおおむね了とした評価をいただいているが、設備の使いにくさ等についてご意見をいただいている。また、業者点検工事中に一部利用者の接触があったが、工事の実施は団体にお伝えしていたものの利用団体内での徹底がなされていなかった。この点は，一層の周知を管理する側としても徹底していきたいが、上記の通り利用者の評価は高いと考えている。	**B（良好）**	アンケートの実施だけでなく、常に利用者の意見を把握できるように努められている。 今年度分のアンケートについては、完成次第共有いただきたいと依頼。
	《Ⅱ総　括》　業務の内容・水準に関する評価 【標準11項目／当施設11項目】		**A（優良）**		**B（良好）**	
Ⅲ収支等	**経理事務** □ 専用口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行ったか。 □ 経理区分を設け、指定管理料を適正に執行していたか。 □ 料金徴収、減免、還付の手続きは適切に処理していたか。	預金通帳、出納帳、利用申請書・減免申請書等、実地調査（金庫等）	**A（優良）**	センターの利用は無料であり現金の収受はない。管理運営に係る経理事務は顧問税理士の指導を受け国の会計基準に従い適切に処理している。	**B（良好）**	顧問税理士の指導のもと、適切に処理されている。
	収支状況 □ 予算と決算に大幅な相違がなく、収入―支出はプラスとなっているか。 □ 収支状況が対前年度比及び当初の目標を達成しているか。	事業計画書、事業報告書	**B（良好）**	蛍光灯やドア等のセンター設備の小規模改修が建物の経年劣化により頻発する傾向にある。これがセンター運営上の収支に良い影響を与えてはいない。しかし、自主事業(スコラ、いるか)等の収入を確保しながらセンター管理全体の収支安定、健全化を引き続き図っていきたい。(2024年度記載内容)今年度も同様の課題は有している。	**B（良好）**	事業計画に概ね沿った収支状況であり、支出は計画よりも抑制できている。3月時点でも黒字で推移しており問題ない水準である。
	経費節減の取組 □ 経費削減に向けた取り組みを積極的に実施し、その効果が上がったか。 □ 清掃、警備、保守点検、修繕等の第三者への委託が適切な水準、内容で実施されたか。	仕様書、事業計画書、事業報告書、委託契約書、実地調査	**A（優良）**	施設の老朽化が進み修繕箇所は多くなっているが、可能な限り業者に依頼せず職員が修繕し経費の節減に努めている。	**B（良好）**	仕様書、事業計画に沿って対応している。 業者に依頼せず、職員が処置を行う等で経費負担を軽減している。
	《Ⅲ総　括》　経費の収支等に関する評価 【標準3項目／当施設3項目】		**A（優良）**		**B（良好）**	
Ⅳその他（独自の取組等）	**その他** □ 努力事項として掲げた取り組みを推進したか。	仕様書、事業計画書、事業報告書、実地調査	**A（優良）**	スコラ事業の実施、遂行3年目に入り、「就労移行」事業も開始しているが今年度は利用が一名であり職員配置基準によると赤字である。これは当初より想定したことである。加えて来年度に向け新規常勤職員の雇用を進めている。	**B（良好）**	事業計画に概ね沿って実施されている。 毎年、養護学校より5名を上限として、利用者を受け付けている。自立訓練事業利用者の半数が、次年度より就労移行支援事業に移行する予定であること確認。支援事業を円滑に行っていくために人手が必要となる。
	《Ⅳ総　括》　その他に関する評価 【当施設1項目】		**A（優良）**		**B（良好）**	

指定管理導入施設実績評価シート（令和7年度）

主な成果（全体）

使用料（利用料）	目標	0 円	⇒	実績	0 円
稼働率	目標	15 %	⇒	実績	16 %
利用者数	目標	7,410 人	⇒	実績	9,346 人

【指定管理者コメント】

センター管理の業務を受託し、指定されたデイサービス等を遂行すると同時に法人独自の自主講座事業を一両年にわたり開催したことで「におの浜に福祉センターあり」ということが地域住民に広がったのではないかと考えている。今後も「地域の選挙投票所」というだけの認識を払しょくし、地域福祉の相談拠点の一つとなりうる可能性を感じている。今後も職員一丸となり地域の期待に応えていきたい。

【施設所管課コメント】

近隣住民にも参加を呼び掛けることで障害者との交流が生まれ利用者増加につながっていると評価する。今後も各団体と連携を図り、利用者の声を聞きながら事業展開していくことを期待する。

自主事業実施による成果

＜主な自主事業の実施状況＞

事業名	指定自主事業・自主事業の別	事業内容	実施状況（実施・追加・未実施）	特記事項（「未実施」の場合はその理由）
におのはまスコラ	自主事業	おおつならではの就労移行支援事業	実施	3F（その他もあり）一室を原則利用。他、、事業内容により別室や地域の公民館等施設も借用している。
手話講座	自主事業	近隣住民に呼びかけ手話を通じてセンターの存在を周知せしめ、障害者との交流機会を育成する。	実施	今年度の事業について広報を近隣住民等に対して行い、講座参加を得た。結果、地域に当福祉センターの存在と役割の周知・浸透を始めている。
地域向けカフェの開始	自主事業	スコラ受講者の就労支援事業として接客等の機会を提供。	実施	会館利用団体に周知し、各団体の事業実施の折に月一回程度コーヒー等の提供を有償(自立訓練事業の事業として実施)で行っているがおおむね好評価をいただいている。このことにより青年期の療育手帳所持者の社会参加に資するものとなっている。
障害者IT利用促進事業	自主事業	障害者のパソコン操作スキルの向上のためのパソコン教室の開催	実施	毎週月・木に開催。
知的障害者体験事業	自主事業	地域住民にポスティング等を行い近隣住民参加の事業	実施	6月30日実施し、高評価を参加者より得たので来年度も実施計画中。

【指定管理者コメント】

モニタリングでも示させていただいたが、スコラの若き当事者と従来からの会館利用の壮老年の障害当事者との交流がカフェ事業等を通じて行われ、利用者に新たな風が吹き込んでいる。また、法人自主事業等の実施により地域住民の福祉センター利用が進み、障害当事者との交流から障害、障害者理解が進むことが期待されるので今後も広げていきたい。

【施設所管課コメント】

におのはまスコラにより、若年層と高齢層の利用者の交流が活発化しており良い傾向にある。
また、地域住民がセンターを利用することで、障害者との交流を通じて、地域住民の障害や障害者への理解が深まることを期待する。

課題及び課題解決の結果

【指定管理者コメント】

大規模修繕（蛍光灯等の全館改修、空調の不具合等）については委託費からの支出が金額的に難しい。利用者用駐車場の確保については引き続き原課のほうにご検討いただき、各課や県機関とご協議の上、善処願いたい。

【施設所管課コメント】

修繕費予算の範囲で、優先順位をつけて修繕を行う。

特記事項等

※評価基準：項目別評価、《総括》、総合評価の評価基準（A～D）は、モニタリングチェックシートと同様とする。

※評価手順：

